

【第2回全体研修会】

石川支援学校 研修部

研究テーマ

「知的障がいのある児童生徒における各教科や各教科等を合わせた指導の充実を目指して
ー新学習指導要領を踏まえ、自立と社会参加に向けて児童生徒が何を学び何が身に付いたのかが明確になる授業づくりー（3年次）」

令和4年1月25日（火）、第2回全体研修会を行いました。今年度の学校研究に係る取り組みの実際や成果と課題について職員全員で共通理解を図るとともに、次年度の学校研究の方向性について確認をしました。

◇今年度の重点目標 【3年次】（令和3年度）

（1）重点目標

個別の指導計画や年間指導計画と授業とを関連させながら学習指導要領に基づいた系統性と根拠のある授業を展開するとともに、3観点による評価規準を設定し、単元や題材のまとまりを見通しながら学習の過程の適切な場面で評価することで、児童生徒が何を学び何が身に付いたのかがわかる授業づくりを行う。

◇学校研究テーマに迫るために

2期制とし、第1期は希望教科で、第2期は代表授業で各1回の研究授業を行った。



◇研究のまとめ（教員へのアンケートより）

①個別の指導計画や年間指導計画とを関連させながらの授業づくりについて

◎個別の指導計画や年間指導計画と授業を関連させることで、系統性のある授業づくりに取り組むことができた。

▲自立活動と各教科との関連を考えるのが難しかった。

②単元や題材のまとまりを見通して行う、3観点の規準に沿った適切な評価について

◎3観点を意識することで児童生徒が学ぶことを具体的に整理することができた。

▲何をどのように評価するのか、さらに検討が必要である。



③グループ研究における児童生徒や教師の評価を、次の授業改善に生かすことについて

◎多くの視点からの評価、意見をいただき、授業改善に生かすことができた。

④「児童生徒が何を学び何が身に付いたのかがわかる授業づくり」を実施することについて

◎授業づくりシートを作成することで、児童生徒に対する目標をしっかりとつことができ、評価規準を設定することでより児童生徒とのかかわりを明確にすることができた。

▲児童生徒に何が必要なのかを考えて授業づくりをしたが、実際に身に付いているか分からない。

◇来年度の学校研究

<研究テーマ>

知的障がいのある児童生徒が何を学び何が身に付いたのかが明確になる授業を目指して
～主体的、対話的で深い学びを促す手立てと3観点による評価規準の設定～

<研究内容>

今年度まで取り組んできた授業づくりについてさらに深めるための研究を行う。

① 主体的、対話的で深い学びを促す手立ての検討

② 3観点による評価規準の設定

⇒児童生徒が自分の成長を実感し、得た知識や技能を実際の生活の中で生かしていけるようにする。

児童生徒の生活の質を向上させ、自立と社会参加へつなげる。